

2026年度 武蔵野美術大学一般選抜学力試験の出題意図

【国語】

○造形学部

出題は現代文長文1問のみとなっている。文章読解、および慣用句、漢字についての知識や理解を問う問題で構成されている。論理的な文章を読み解く力、および語彙や文法などの基本的な知識を備えているかをマークシート方式、および記述式で測ることを意図している。

○造形構想学部／一般方式

出題は映像学科においては現代文長文2問、クリエイティブイノベーション学科においては現代文長文2問と古文1問となっている。現代文はテーマの異なる2つの論説文を題材に、文章読解、および慣用句、漢字についての知識や理解を問う問題で構成されている。論理的な文章を読み解く力、および語彙や文法などの基本的な知識を備えているかを測ることを意図している。古文は基本的な古文の文法や慣用句の知識や理解、および読解力を問う問題になっている。

○造形構想学部／学部統一方式

出題は現代文のみとなっている。テーマの異なる2つの論説文を題材に、文章読解、および慣用句、漢字についての知識や理解を問う問題で構成されている。論理的な文章を読み解く力、および語彙や文法などの基本的な知識を備えているかを測ることを意図している。

【英語】

日本の一般的な高等学校で学習する基本的な英語の能力を確認することを目指している。

○造形学部

出題は長文読解問題、会話文問題、語彙・語法・文法問題、整序問題で構成されている。長文の単語レベルは一般的な高等学校の教科書レベルである。問題はふさわしい語句の穴埋め、文の並び替え、文意、そして単語や熟語の理解をマークシート方式と記述式で問うものである。語彙・語法・文法に関する知識、読解力など総合的な英語能力を習得していることがポイントとなる。

○造形構想学部／一般方式

出題は映像学科においては長文読解問題、会話文問題、語彙・語法・文法問題、整序問題で、クリエイティブイノベーション学科においては二つの長文読解問題、会話文、語彙・語法・文法問題、整序問題で構成されている。いずれの長文も単語のレベルは一般的な高等

学校の教科書レベルである。問題はふさわしい語句の穴埋め、文の並び替え、文意、そして単語や熟語の理解をマークシート方式で問うものである。語彙・語法・文法に関する知識、読解力など総合的な英語能力を習得していることがポイントとなる。

○造形構想学部／学部統一方式

出題は長文読解問題、会話文問題、語彙・語法・文法問題、整序問題で構成されている。長文の単語レベルは一般的な高等学校の教科書レベルである。問題はふさわしい語句の穴埋め、文の並び替え、文意、そして単語や熟語の理解をマークシート方式で問うものである。語彙・文法に関する知識、読解力など総合的な英語能力を習得していることがポイントとなる。

【数学】

○造形学部建築学科、基礎デザイン学科、芸術文化学科

大問Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは建築学科、基礎デザイン学科、芸術文化学科共通の問題となっている。出題範囲である数学Ⅰ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）について、教科書に載っている基本的な内容の理解度を測る出題としている。

大問Ⅳ、Ⅴは建築学科受験生のみを対象としている。数学Ⅱで扱われる内容を中心に、式だけでなくグラフの作成も求め、教科書に掲載されている基本的な内容の理解度を測る出題としている。いずれの問題も記述式とし、解に至る過程も含めて評価している。

問題1

正確な計算を実行する力、論理的な構成力を問う。数学を諸科学の記述言語として捉えるための、基礎体力の定着度を測る意図がある。

問題2

数式が表す幾何学的な意味を理解しているかを問う。特に2次関数を単なる計算対象としてではなく、放物線という『形』の性質を記述する道具として扱えるかを評価する。

問題3：

図形を多角的に観察し、既知の性質を組み合わせることで未知の量を導く洞察力を問う。

問題4：

多項式に留まらない多様な『形』への理解を問う。抽象的な数式を具体的な形状としてイメージする力を重視する。

問題5：

図形問題。関数のグラフの描画、微分、積分を用いた形にまつわる量の基本的な計算能力を問う。

○造形構想学部／一般方式

出題範囲は、数Ⅰ、数A（図形の性質、場合の数と確率）、数Ⅱ、数学B（数列）である。大問5題から構成されており、問題Ⅰは小問、問題Ⅱ以降は総合問題である。いずれの問題も教科書に掲載されている基本的問題、標準的問題をベースにしており、設問を読みとる力、論理的に考える力、さらに計算力、論述の構成力、表現力を、総合的に測ることを意図している。

教科書や参考書などの説明を読み、やさしい問題で基礎を固め、解説が詳しく書かれている標準問題や良問を数多く繰り返し解いてほしい。「基本事項」の意味や使い方、論述の構造や表現を学ぶことで数学への理解が深まる。手を動かし、数多く計算して慣れることも大事である。日頃から別解を探してみる、計算して出てきた結果を別の角度から調べてみる、図に描いて考えてみる等の学習を積み重ねることにより多面的に理解する力がつくと思われる。

問題1：

正確な計算を実行する力、論理的な構成力を問う。数学を諸科学の記述言語として捉えるための、基礎体力の定着度を測る意図がある。

問題2：

事象の数え上げの原理を正しく理解し、確率の概念を等確率性の議論から構築できるかを問う。公式の適用ではなく、状況を適切に整理する力を評価したい。

問題3：

図形を多角的に観察し、既知の性質を組み合わせて未知の量を導く洞察力を問う。

問題4：

集合と論理の問題。論理的条件から集合を特定し、集合の演算が正しく行えるかを問う。

問題5：

図形問題。関数のグラフに対して、微分、積分を用いた形にまつわる量の基本的な計算能力を問う。

○造形構想学部／学部統一方式

出題範囲は、数Ⅰ、数A（図形の性質、場合の数と確率）、数Ⅱ、数学B（数列）である。大問4題から構成されており、問題Ⅰは小問、問題Ⅱ以降は総合問題である。いずれの問題も教科書に掲載されている基本的問題、標準的問題をベースにしており、設問を読みとる力、論理的に考える力、さらに計算力、論述の構成力、表現力を、総合的に測ることを意図している。

教科書や参考書などの説明を読み、やさしい問題で基礎を固め、解説が詳しく書かれている標準問題や良問を数多く繰り返し解いてほしい。「基本事項」の意味や使い方、論述の構造や表現を学ぶことで数学への理解が深まる。手を動かし、数多く計算して慣れることも大事である。日頃から別解を探してみる、計算して出てきた結果を別の角度から調べてみる、図

に描いて考えてみる等の学習を積み重ねることにより多面的に理解する力がつくと思われる。

問題1：

正確な計算を実行する力、論理的な構成力を問う。数学を諸科学の記述言語として捉えるための、基礎体力の定着度を測る意図がある。

問題2：

事象の数え上げの原理を正しく理解し、確率の概念を等確率性の議論から構築できるかを問う。公式の適用ではなく、状況を適切に整理する力を評価したい。

問題3：

図形的な性質を数式に翻訳する、あるいは数式から図形的な情報を復元する能力を問う。長さや面積といった計量的な情報の理解を問う。

【地理歴史（世界史または日本史）】

- 造形学部芸術文化学科、造形構想学部クリエイティブイノベーション学科、映像学科
世界史、日本史とも、古代から現代に至るまで幅広く出題している。歴史上の出来事や人名等の知識を問う問題、年代順の並べ替え等の歴史の流れについての理解を問う問題を中心に構成されており、教科書に掲載されている基本的な内容の理解度を測る出題としている。

【理科（物理または化学）】

- 造形構想学部クリエイティブイノベーション学科、映像学科
物理、化学とも、高等学校で学ぶ範囲から幅広く出題している。問題は穴埋めや組み合わせを問う問題、計算を要する問題などさまざまだが、解答はすべてマークシート方式である。教科書に掲載されている基本的な内容の理解度を測る出題としている。